

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4570600355		
法人名	医療法人杏林会		
事業所名	グループホームみみつ 杏		
所在地	宮崎県日向市美々津町3870		
自己評価作成日	令和2年5月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内
訪問調査日	令和2年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①病院が併設している為、緊急時の連携、充実した看取りの体制が組んでいる。
 ②入居者様の個々の特徴を尊重しながら、入居者様中心の支援を常に職員が意識し、自立支援を目指し持っている力を引き出せる様、かわりを持っている。
 ③入居者の馴染みの生活を継続出来る様に、地域的美容室や定期的な生け花の先生との交流作りを行っている。 ④開放的な居住空間があり、畑にて季節の食材を育てることにより成長の楽しみ、収穫の楽しみ、食べる楽しみを感じられる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは駅から徒歩圏内でありながら、緑に囲まれ、自然豊かな地域に位置している。隣には母体となる医療機関があり、必要に応じて連携がとれる環境である。
 ホーム内には目に付く場所に理念が掲示されている。朝礼で5つの理念の中からひとつ選び、職員はその理念に基づいた、一日の目標を立て業務に就いている。また、終礼で振り返りを行い日々の業務の中で、ホームとして大切にしていることを共有できるように取り組んでいる。
 また、管理者は年3回の職員面談を行い、各自の目標を定めたり、意見を聴くことで、介護の質の向上と共に、働きやすい環境を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で個人の業務の中での一日の目標を設定し、実践につなげている。	朝礼で、職員がひとりずつ理念に基づく1日の目標を発表し、終礼時に振り返りを行っている。目標を持つことで、理念を業務に活かそうと努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の行事に地域のボランティアの方に参加して頂き交流を行えている。	地域のスーパーから週に3回、野菜等の配達がある。また、通常時においてボランティアの訪問や、入居者の地域の知人等の訪問があり、地域に根差したホームとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、月に1回認知症に対する勉強会を開催している。運営推進会議でご家族様に認知症の症状や勉強会、意見交換等を行い情報の共有をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で入居者様のサービスの実施・評価状況を報告し話し合いを行っている。	状況の報告に加え、ホームとして取り組んでいる研修内容の報告や、法人内で行った事例発表などの情報発信を行い、質疑を交えて、ホームのことを知ってもらうように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡や相談を行い、指導を頂いている。	介護保険制度や、運営状況等について、電話連絡を行い、関係を築いている。ホーム側から積極的に関わりを持ち、運営に活かそうと努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠は行っていない。身体拘束廃止について運営推進会議、新入職員へ研修報告を行っている。また、職員会議で定期的に勉強会を繰り返し実施しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月に1回の職員会議において、身体拘束をしないケアに向けて、勉強会を開催している。また、外部研修を受講した職員が伝達研修を行い、ケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加した職員が他職員へ伝達講習する場を設けている。また、職員会議で日頃のケアに虐待、虐待の芽が無いか定期的に見直す機会を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活支援事業や成年後見制度の利用者はいないが今後、このような制度を学んでいく事も今後必要と考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、料金の説明、不安や疑問にきちんと答える様にしている。介護保険改定や加算については、電話での連絡、運営推進会議での説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一度、運営推進会議を実施している。出席者から意見や要望を出せるよう懇談を実施、他にも第三者委員に出席して頂き意見交換を行っている。	通常は面会時を活用し、話をする機会を設けている。新型コロナウイルス対策で電話対応が多いが、希望があればメールを活用して情報の伝達も可能である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議、年に3回の個人面談を実施している。経営者に相談報告し、職員が働きやすい環境をつくっている。	職員からの意見を管理者が聴取し、法人に伝達している。現在は浴室設備について検討中である。管理者は年に3回、職員と面談を行い、言いやすい環境を作ろうと努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価及び、資格取得の相談を行い、援助を頂き、給料や昇給にも反映されている。また、決められた労働時間の中で有効に時間を使う事が出来る様、業務の改善を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	病院内、外への研修や勉強会への出席を働きかけている。病院全体での院内発表を行っている。認知症実践者研修やリーダー研修へ参加した職員から他職員へ伝達講習を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所外での研修へ参加し、他事業所との交流や意見交換を行っている。また、県北ブロック会議にも出席し意見交換を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメントを行い、不安や、御家族のからの情報を聞き、全職員で情報を知れるよう工夫し、統一したケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思い、本人の思いを事前に聞き、担当者会議やその後のケアも密に行い、御家族への電話連絡を行い要望などある場合は、取り入れ情報の共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族から情報収集を行い、緊急性が高いのか確認しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活歴から本人が出来る事を知り、出来るだけ自分で行なえる支援、環境作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて本人の日常生活の様子を伝えている。また、希望時には電話にて直接話す機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	介護度の上昇、体力の低下、外出の規制により外出できる時期等が限られている。外出規制が無い時は馴染みの場所へのドライブや家族との外出を支援している。	本人や家族からの情報を基に、ドライブで港湾や畑、農道に出かけることもあった。ホーム内でも、以前からの知り合い同士の方がおり、交流の機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しい時間が過ごせるように、気の合う方との座席の配慮を行ったり、職員と食材の準備や洗濯物干し、たたみを一緒に行える環境作りを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院される場合は、本人が安心して治療生活が行える様、情報の提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立て替え時に本人、御家族の意向や希望を聞き、プランに反映させている。本人の希望を聞く事が困難な時には本人本位に検討しご家族へ確認を行っている。	日々の記録を基に、思いや意向の把握に努めている。自己選択できるように、声掛けにて一つひとつ確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人一人のアセスメントやサマリー、ケアプラン等から情報収集に努め、個別のファイルを作成しており、職員全員で確認しケアに反映出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康観察を行っている。また、経過記録や連絡ノート等へ記録を残し全職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な計画書の作成に伴い、アセスメントをその都度行い、生活の中での課題を見つけ、且つ者会議で検討を行い、計画書に支援内容を取り入れている。	入居者ごとの担当職員が、モニタリングを行い、情報を計画作成担当者がまとめている。個人ごとのファイルには、入居者の顔写真が添付され、各個人に関心が向けられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや朝礼・終礼の際に情報を伝え職員間で情報の旧友を行っている。計画書に基づいた実践の結果を報告、相談し見直しに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で病院受診が必要な際は、御家族や主治医と連携を取り対応して。また、御家族が他科受診出来ない場合はグループホームの職員が対応し受診を行い、受診の結果は必ず電話にて御家族に報告している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域の美容室、民生委員、区長、八百屋、生け花を教える先生方との交流を支援している。また、行事の際にボランティアの方に来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設している病院と連携を取り、突発的な身体の変異にも対応出来ている。定期的な訪問診療による健康管理も行っている。御家族が対応出来ない病院受診の送迎や予約、通院介助を行っている。	月に1回訪問診療があり、健康状態に応じた対応がすぐに行える環境である。他科受診の際や家族が付き添えない場合には、ホームの看護師が情報提供書を作成し、医療機関に提出し、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理の中で、異常や気づきがあれば看護師に報告し、併設の病院や他科受診と連携を取り、利用者に適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携体制を取っており、入院の際は個人の情報提供を行っている。また、退院前のカンファレンスにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に御家族に重度化した場合や終末期の意向の確認を行っている。また、職員全体での情報の共有も行っている。	入居時にホーム独自の「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき説明し、ホームとしてできること、できないことを伝えている。また、希望に基づき看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応として、全職員での対応の統一を行っている。また、院内、外での研修や消防本部よりAEDの使用方法や心肺蘇生法、防災訓練などでの勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内、外での避難訓練や火災訓練を行っている。地域消防団や住民の方と一緒にを行い、協力を依頼する時もある。	定期的な訓練を実施し、消防署や消防団とも連携を図っている。隣接する医療機関を含めて連絡体制が確立されている。救急法などの勉強会も行い、災害に備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の入れ替わりにより、現在対応を統一している。各居室へ入る際は必ず、声をかける、ノックをする等、常に行っている。また、排泄時、オムツ交換時には居室やトイレの扉やカーテンを閉めている。	管理者は、入居者を目上の人として意識し声掛けを行うように促している。異性介護の同意を得るとともに、同性介護の希望があれば、対応している。入居者のお気に入りの場所を把握し、快適に過ごせるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物をメニューに取り入れている。本人の思いを尊重し、職員が思い込みからケアにあたらない様、指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、本人のペースに合わせて本人のやりたい事を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は着替えの際に本人に選んでもらったり一緒に選び、更衣を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備や食器の下膳など、出来る事は職員と一緒にやっている。また、好きな物を聞き取り、献立に取り入れている。	できる方には協力を依頼し、テーブル拭きや味見等を行ってもらっている。献立作成時に希望の聞き取りを行い、食事が楽しみになるように検討している。状況が許せば、畑の豆の収穫を一緒に行うことがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士、看護師に相談を行い食事形態、主食量を聞き食事の提供を行っている。月に一度の体重測定、水分摂取の声かけを行い、記録を職員全員で共有している。また、食事量に低下があれば医師に報告し栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一度、歯科医師から指導を受けた歯科衛生士による口腔ケア指導を職員に行っている。利用者に合った口腔ケアの実施に取り組んでいる。磨き残しがある方は口腔内を確認し仕上げ磨きを行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄状態を把握し声かけが必要な方には声かけを行っている。排泄動作に迷いがある方には動作の声かけを行い、出来る限り、自己にて行える様取り組んでいる。	トイレの場所が分からない入居者の、パターンの把握を行い、行動や仕草を観察し、失敗をしない排泄に繋がった事例がある。また、重度化した方に対して、尿意や便意を尊重し、オムツではなくトイレで排泄できるよう2人介助で取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の状態に合わせて冷たい飲み物の提供や食事形態を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴を行っている。入浴する際は本人に確認し、入浴を希望されない時は、翌日での対応としている。	入浴は毎日実施し、入居者は2日に1回を基本として入浴している。必要や希望に応じて入浴できる体制である。石鹸類は希望があれば好みの物を使用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣の把握に努めている。また、安楽な睡眠が取れる様、睡眠状況の確認、観察を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表に薬名を記載、処方された薬を全職員が把握出来る様、薬情報を添付している。看護師が服薬セットを行い、日勤者2名、夜勤者1名でチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の下準備、洗濯物干しやたたみ等、出来る方へは声かけし行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、感染症拡大防止の為、外出に規制があり外出出来ない。規制が無い時は、ドライブに出かけたり御家族との面会の調整も行っている。	ドライブに加えて、隣接する病院の売店に出掛けることもあった。現在はホームの庭を活用し、屋外に出る機会を設けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族から預かったお小遣いは特定の職員（ユニットリーダー、管理者）が鍵のついたロッカーで保管、管理している。使用時には御家族へ説明を行い、記録と残額の提示を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自ら電話をかける事は無いが要望にて電話をかけたり、必要に応じて電話をしている。年賀状の時期には、年賀状を送るか本人に確認し、年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁紙や花、カレンダーを飾り季節を感じて頂いている。本人のペースに合わせてテレビを見られたり、歌謡曲を流している。	ホームの行事係が、季節に応じた飾り付け等を企画し、入居者と共に制作し掲示している。定期的な換気を行い、エアコンは温度を定めて、快適に過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのソファにて気の合った利用者同士で過ごせるよう、座る位置の配慮をしている。一日を通して本人が過ごしやすいように、居室が良い方は居室で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は自宅から準備して頂いている。家族の写真や大出の写真を居室に飾っている。	居室内で趣味活動ができるように机を持ち込まれている方、家族の写真を飾っている方、カーペットを敷いておられる方など、それぞれの個性に合わせてレイアウトされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のレイアウトを職員全員で検討し、変更した方が良い時は、随時検討している。また、残存能力が活かせる様、支援している。		